

過活動型せん妄に対する体系的治療

■ 治療レジメン薬投与開始

不穏 / 興奮の定期的評価

治療目標

不穏 / 興奮が緩和している
or 許容できる 注1

No

選択可能な
治療レジメンが無効
or
有害事象で増量・変更
できない 注2

No

- 同じ治療レジメンで増量
or
- 作用の強い治療レジメンへ変更

Yes

治療レジメン以外の薬物治療の追加 / 変更
(フェノバルビタール、ミアンセリン直腸投与など) or 持続的鎮静

不穏 / 興奮の
定期的評価

治療レジメン薬が原因の
不相応な意識低下 注3

Yes

不相応な低下

減量 / 変更で
不穏 / 興奮悪化が予測
される

No

- 同じ治療レジメンで減量
or
- 作用の弱い治療レジメンへ変更

No 意識レベルは相応

■ 同治療継続

【治療レジメン】

ブチロフェノン療法

ブチロフェノン / ベンゾジアゼピン併用療法

フェノチアジン療法

【適応】

第一選択
夜間就眠できている

第一選択
夜間就眠できていない

他の治療が無効
不穏・興奮が著しい

【特徴】

作用弱い

作用強い

注1: 不穏 / 興奮があっても患者 / 家族の価値観で今以上の苦痛緩和を希望せず苦痛緩和と薬剤の影響のバランスから増量を希望しない場合

注2: 呼吸数低下、錐体外路症状、血圧低下などの有害事象により、向精神薬の増量が困難

注3: 通常は RASS-2 ~ 0 (浅い鎮静状態までの意識レベル) 程度であれば意識レベルは相応と考える